

得ズ猶漂白方法ニ付テハ充分研究ノ余地アリ島尻郡具志川村島島地先ノモノハ品質形狀共宜シキ様ナレバ之レヲ以テ試験研究セントス

試験場所ニ於ケル水溫比重

日	時	天候	雲量	風向	風力	氣溫	水溫	比重(換算)	摘	要
七月十五日	午後一時	晴	三	南	四	二九、九	三、七	二四、四二	水溫比重ハ表面ノミ測定セリ	
全日	午後六時	曇	八	南東	三	二八、〇	二九、〇	二四、四〇		
七月廿一日	零時半	晴	六	西	三	三一、五	三一、一	二四、〇〇		
全日	午後五時	全	一	西	三	二六、五	三〇、〇	二四、〇〇		
七月廿二日	午前八時半	全	三	南	二	三〇、〇	二九、〇	二三、六九		
全日	午後三時	全	二	全	二	三一、五	三三、〇	二四、〇〇		
全日	午前八時	全	四	南東	二	三〇、〇	二九、五	二四、二三		
全日	午後二時	曇	六	全	三	三〇、〇	三三、〇	二四、〇〇		

麒麟菜養殖試験

試験ノ目的

本縣ニ於ケル有用海藻類トシテハ麒麟菜海人草等ニシテ年産額合セテ二万二千八百余圓ニシテ其ノ中麒麟菜

ニ於テハ六千二百四十五圓ト云フ甚ダ微々タルモノナリ然ルニ之レ等藻類ノ需要ハ近年益々増加ノ傾向ニ  
 リ麒麟菜ハ本縣到ル處ニ生産スルモ就中八重山群島沿岸ハ品質優良ナルト饒産地トシテノ二点ニ於テ知ラ  
 然ルニ本縣沿岸ハ珊瑚虫類及石灰藻等繁殖シ其ノ結果殆ンド磯焼ノ状態ニアル所多シ麒麟菜ハ左表ノ如ク  
 少ノ程度ニ至ラザルモ從來ノ如キ亂獲ノミニテ蕃殖ノ方法ヲ講ゼザレバ終ニハ減少ノ虞レアリ且其ノ用途  
 需要ノ増大トニ鑑ミ將來ハ其ノ生産モ著シク増大セシムルノ要アルモノト認ムルヲ以テ本場ニ於テハ本年  
 ヨリ増殖試験ヲ開始セリ

最近五ケ年間ニ於ケル麒麟菜生産額差ノ如シ

大正十三年	二、四六五貫	一六九圓
同 十四年	一八、一〇九	四、六八四
同 十五年	一一、二七〇	九八七
昭和二年	二〇、四四一	一、六一三
昭和三年	四五、二六二	六、二四五

試験ノ方法

一、投石方法

投石ノ時期及場所

自十月三日 至十月五日

八重山郡石垣町宇新川觀音堂地先

試験地ハ底質砂泥質ナルモ七割ガ泥質ナリ海藻多少繁茂シ外海波浪ノ影響ヲ蒙ルコト多ク且暴風雨ノ際海岸ニ押シ流サレルヲ防グ目的ニテ沿岸ノ海水ニ浸リタル五、六貫大ノ岩石ヲ豫メ試験地ニ投入スルコトトセリ投入ニ際シテハ刳舟ヲ使用シ一隻一回ニ三十個積載シ豫メ選定シ置キタル試験地ニ投入セリ試験地ハ干潮時一、尋乃至二尋ニシテ岩石五百個ヲ投入セリ又麒麟菜ハ主トシテ枯死セル珊瑚石ニ着生スルモノノ如ク認ムルヲ以テ海岸ニ散在セル珊瑚石ヲ採集シ前記試験地ニ投入セリ

### 二、移植方法

此ノ方法ハ種苗ヲ採集シ運搬シテ前記試験地ニ撒布スルノ方法ナル

採取場及採取年月日

八重山郡竹富村小濱

自十月六日至十月八日

### 三、運搬方法

十月六日、八日ノ二日間海士三名刳舟ニ乗込ミ都合五隻ニテ午前四時出港石垣港ヨリ五湮ノ地ニアル小濱島ニ於テ干潮時ヲ見計ヒテ採取セリ採取ノ方法ハ海士一人ハ舟ヲ操リ他ノ二人ハ箠ヲ携ヘテ海底ニ潜リ採集ス此ノ操作一同終リタル時ハ種苗ヲ刳舟ニ積載シ日光ノ直射ヲ避ケツツ試験地ニ運搬シ前記投石間ニ坪當リ二斗位平均ニ撒布シ本年ハ刳舟ニテ拾隻分投入セリ

三、試験場所ニ於ケル水温比重

日	時	天候	雲量	風向	風力	潮候	氣温	水温	比重	備	考
昭和四年十月三日	午前十時	晴	四	東	二	上	二八、五	二八、三	三、七	表層ノミ測定セリ	
十月四日	午後四時	曇	一〇	西南	一	下	二八、一	二八、〇	三、二		
十月五日	午前九時十分	晴	三	東	二	上	二八、九	二八、五	三、二		
十月七日	午後三時	全	六	東	三	下	二九、〇	二八、五	三、二		
十月八日	午後三時	曇	一〇	南東	五	下	二九、〇	二九、〇	三、三		

### 養 鯉 試 験

本年度ハ左記養魚地ヲ利用シテ養鯉試験ヲ行フ事トセリ

#### 一、養魚池ノ構造

- イ、飼育池面積一五七坪（自然ノ池ノ周圍ヲ石垣積トナシ水深二尺）
- ロ、コンクリート造孵化池面積十二坪（但シ一面三坪區劃シ水深二尺トス）
- ハ、コンクリート造飼育池面積三十二坪（但シ一面八坪深三尺トス）
- ニ、産卵池ハ一面九坪ノ飼育池ヲ使用セリ